【　子どもの読書活動の推進について　】

二　子どもの読書活動の推進について

（一）子どもの読書の習慣化に向けたこれまでの取組について

　次に、子どもの読書活動についてですが、

　読書活動は、子どもにとって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものであり、子どもが楽しみながら、読書週間を身に付けられるよう取組むことが必要であります。

　道教委では、平成 30 年度から『地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業』を実施し、学校図書館の活性化や、子どもの読書活動推進などの取組を行ってきていると承知していますが、具体的にはどのような取組を進めてきたのか、伺います。

（答弁：生涯学習推進局生涯学習課長　山口利之）

・道教委では、平成 30 年度より『地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業』を実施している。

・この事業は、司書教諭、学校司書、図書館職員、教育委員会職員、ボランティア団体等を対象に、読書活動の充実の意義等について共通理解を図るため、意見交換等を行うフォーラムを開催するもので、3 か年で、全道 14 管内で実施する

こととしており、今年度についても、4管内での実施を予定している。

（二）子どもの家庭における読書習慣の現状について

　このような取組を行っている中で、道内の小・中学生の家庭等での読書時間の状況、また、全く読書をしない児童生徒の割合はどのような状況となっているのか、併せて伺います。

（答弁：生涯学習推進局生涯学習課長　山口利之）

・『普段、1日当たりどれくらいの時間、読書するか』という質問に対し、10分以上読書をすると回答した割合は、道内公立学校の小学生で 62.9%、中学生で52.0%となっている。

・また、『普段、読書を全くしない』と回答した割合は、小学生で21.4%、中学生で33.8%となっている。

（三）読書をしない要因について

　普段全く読書をしない小・中学生の割合について答弁がありましたが、私としては、スマートフォンの普及とその利用時間の長時間化により、読書活動の時間に影響を与えている可能性があるのではないかと懸念していますが、道教委では、読書をしない児童生徒がいる要因をどのように捉えているのか、伺います。

（答弁：生涯学習推進局長　添田雅之）

・平成 28 年度に文部科学省が委託した調査報告書によると、小学生ではテレビ等を見る時間やゲームで遊ぶ時間が長い児童、中学生では、テレビ等を見る時間が長い生徒ほど、読書時間が短い傾向が見られている。

・道教委では、スマートフォンの普及などが、読書環境にも大きな影響を与えているものと考えている。

（四）今後の子どもの読書習慣の形成に向けた取組について

　子どもの成長に伴い他の活動への関心が高まり、読書への関心度合いが低くなっていることがうかがわれますが、子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、読書習慣を含めた生活習慣の確立が必要ではないかと考えられますが、道教委として、今後、どのように取組んで行く考えなのか、お伺いいたします。

（答弁：教育部長）

・子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、子どもの読書のきっかけづくりや読書週間の定着に向けて積極的に取組むことが重要であると考えている。

・道教委では、これまでも、『家読（うちどく）』を啓発するリーフレットの作成・配布など、保護者を対象とした啓発等の取組を進めてきた。

・今後とも、保護者に対し、読書の楽しさや重要性について、より分かりやすい啓発資料を作成・配布するなどして、家庭における読書活動の推進に取り組んでまいる。